



2026(令和8)年7月16日 編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地 Tel 024-535-3218 <https://www.library.fcs.ed.jp/>

企画展示

まほろん移動展

アンダー

U-15 の考古学 発掘調査で何がわかる？

期間:7月3日(金)から8月5日(水) 場所:企画展示コーナー

「発掘調査の現場」にスポットを当て、発掘調査で使う道具や、記録の方法などを、土器の妖精Qくんが案内役になってご紹介します。U(アンダー)15 とある通り、お子様にもお楽しみいただけます。



公開図書室 展示のご案内

現代アートにふれる

*県立美術館の「草間彌生 版画の世界」に

ちなみ、現代アートの本を紹介します

8月5日(水)まで センターホール付近

教科書展示会 子どもたちの教科書を見てみよう！

*現在の小・中学校の教科書を展示します

8月5日(水)まで 公開図書室(蔵書検索機横)

150年！

*県政150周年にちなみ、150周年を迎えた

事項や人物を特集した雑誌を紹介します

9月2日(水)まで 調査相談カウンター横

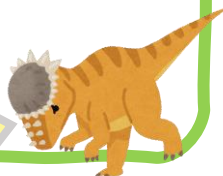
一步深く知る恐竜学

*県立博物館の「大恐竜展」にちなんだ展示です

7月14日(火)から9月2日(水)まで

公開図書室

こどものへやでも、恐竜の
本の展示をしています！



こどものへやの展示をご案内します。

● こどものとも・かがくのとも

9月2日(水)まで

● 宇宙のふしぎ 生命のふしぎ

*宇宙、古代生物、恐竜、動物、植物などの謎や
不思議にせまる、図鑑や読み物を展示します

9月2日(水)まで

● 青少年読書感想文全国コンクール課題図書・ 夏休みの本(緑陰図書)

8月23日(日)まで

● 自由研究・工作の本

7月16日(木)から8月23日(日)まで

ちいさなおはなしかい

0歳から3歳くらいの、あかちゃん向けおはなしかい
です。予約不要です。

8月28日(金) 11時から

始まる時間までに「こどものへや」へお越しください

※7月の ちいさなおはなしかい はお休みです

新着案内

各分野の担当者が選んだ、おすすめの新着資料を紹介します。

人文・社会・自然

『〈子ども〉のための哲学 完成版』(講談社現代新書)
永井均/著 講談社 2026.3 104/N7/2

「なぜ自分自身は存在するのか」「なぜ悪いことをしてはいけないのか」、子どもの頃漠然と考えたことはありませんか？ 子どもは日々たくさんの疑問を感じ、考えながら生きています。著者は、子どものように何事にも疑問を抱き、自身の思考を深めることが哲学の必要条件だと言います。本書は、他人の思想をなぞるのではなく、問いに対して自分なりの答えを出すためのプロセスを教えてください。

『中世ヨーロッパの魔術師』
タビサ・スタンモア/著 ダコスタ吉村花子/訳
河出書房新社 2025.12 230.4/ス25Z

中世ヨーロッパでは、なくし物捜しから病気治療、恋愛、復讐に至るまで、あらゆる階層の人々が日常的に「魔術師」を頼っていました。本書は、身近な困りごとを解決する存在だった魔術師たちと、彼らを頼った人々のリアルな生活や感情を多くのエピソードから紐解きます。魔術のイメージを覆し、知的好奇心を刺激する一冊です。

『希望のチョコレート「平和」への願いを作り続けるシリア難民家族の物語』ジョン・タットリー/著
矢沢聖子/訳 原書房 2026.2 588.34/タ262

シリアで「ハダド・チョコレート」というチョコレートの製造・販売を営んでいたイサム・ハダドとその一家は、内戦により祖国を追われ、工場や家を失ってしまいます。難民となった一家に苦難が続きますが、新たにカナダでチョコレート製造を再開し、やがて国を動かす一大ブランドへ成長を遂げます。戦禍を乗り越えた家族の軌跡を描いたノンフィクションです。

児童・児童図書研究

『「クマのプーさん」誕生物語 A・A・ミルンと E・H・シェパードの生涯とその世界』ジェームズ・キャンベル/著
富原まさ江/訳 原書房 2026.1 J930.27/ミ

クマ・黄色・ハチミツで思い浮かぶキャラクターはいますか？ そう、「クマのプーさん」です。多くの方は、あのつぶらな瞳と少し間の抜けた可愛い顔、ぽてっとした身体を頭に思い浮かべたと思います。

本書では、そのプーさんや、仲間たちが生き生きと暮らす「100エーカーの森」などの舞台の生みの親である A・A・ミルンと、その世界観を挿絵で表現した E・H・シェパードの生い立ちや、当時の時代背景、二人が出会ったきっかけなどから、「クマのプーさん」を制作するに至った経緯を紐解いていきます。価値観の違う二人が、互いに影響を与え合いながら作品を作っていたことが分かります。アニメしか見たことがない人も、原作を読んでみたいくなるような一冊です。

雑誌・新聞

夏に関するさまざまな特集記事のある雑誌を紹介します。ぜひご活用ください。

『旅の手帖』交通新聞社 Z291/T1 2026.6
(第 50 巻 7 号, 651 号, 2026 年 7 月)

特集「夏のお得きっぷの旅」

『食べもの文化』芽ばえ Z498.5/T2 2026.7
(No.631, 2026 年 7 月号)

特集「夏の遊び」

『現代農業』農山漁村文化協会 Z610.5/G1 2026.7
(第 105 巻 7 号, 復刊第 957 号, 2026 年 7 月号)

特集「よし、今夏の草刈り 楽しみだ」

『青春と読書』集英社 Z910.5/S25 2026.6
(第 61 巻第 7 号, 通巻 600 号, 2026. 6)

特集「集英社文庫 ナツイチ 2026」

地域

『野馬追で会いましょう 相馬の馬文化と震災後の日常』
(集英社新書) 星野博美/著 集英社
2026.4 LS385.2/H5/1

「相馬野馬追」は、国の重要無形民俗文化財に指定されている伝統的な祭事です。甲冑競馬や野馬懸などの行事が行われ、毎年多くの人がこの伝統馬事芸能を見に相双地方へ訪れます。

2021年に初めてこの祭りを訪れた著者は、浪江町から参加していた「平本家」の人々との出会いを通し、原発事故後の人々の歩みや現在の野馬追の在り方を辿っていきます。被災して全国に散らばった人々が、野馬追を通じて絆を繋ぎ止めていく姿に深く心を揺さぶられる一冊です。

『3・11復興ふるさとの記憶を遺す希望の文化財』
山田菜の花/著 淡交社 2026.2 LS709/Y8/1

全町避難解除後、復興に向かう広野町で、災害公営住宅の建設予定地に見つかった遺跡は、古代の公的機関「駅家」に関連する可能性のある重要なものでした。福島県の被災者や関係者はもちろん、阪神淡路大震災を経験して兵庫から応援に駆け付けた埋蔵文化財関係者、その家族、文化庁職員など多方面にわたる取材を経て書かれた、東日本大震災からの復興と文化財保存をめぐるドキュメンタリーです。

